

日本労働年鑑 第53集 1983年版  
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

X 国際労働組合運動と日本

1 国際労働組合組織の動向とわが国の労働組合

3 同盟の国際連帯・交流活動

同盟の国際連帯活動方針

同盟は八二年一月二六日～二八日開催された一九八二～八三年度運動方針のなかで、国際活動に関する方針をつぎのように決定した。

【国際活動の強化、一九八二・八三年度運動方針、第三部のXII(全文)】

われわれは、社会正義を確立し、労働者の利益を守り、世界の平和と繁栄を実現するため、国際連帯活動を従来にも増して、より積極的にかつ高次に展開させなければならない。このため次の諸活動を進める。

(1)国際自由労連の基調を支持し、同労連及び友好組織との連帯を強化しつつ、同労連が進める三つの重点活動、すなわち、(イ)経済と社会政策に関する国際的な行動についての政策推進と調整を行い、関係各国首脳および国連、ILO、OECD等の各国際諸機関に民主的労働組合の政策を反映させる。(ロ)民主的労働運動の強化発展のための連帯活動、とくに発展途上国労組に対する組織強化、組合教育、共済事業等の諸活動に対して援助を行う。(ハ)自由な労働組合主義の推進、人権と労働組合権を守り、圧政に苦しむ労働者や、恵まれない人々に援助の手をさしのべる活動を強化する。

(2)国際自由労連と密接な関係にある国際産業別組織(ITS)への、関係構成組織の加盟を促進し、連携を深めながら共通課題に取り組む。

(3)国際自由労連へ復帰したAFL-CIOとの連携をさらに強め、定期会談を充実し、相互理解を深め、共通課題についての取り組みを強化する。

(4)民主主義勢力の一翼を担う西欧諸国労組との友好関係を強化し、交流を深める。

(5)経済の国際化に対応して、経済協力開発機構(OECD)、同労組諮問委員会(TUAC)の活動に積極的に参加し、経済政策等に関する立案、調整に協力する。また、先進工業国労組の社会・経済政策専門家を招へいし、国際会議を開催し、共通問題に関する相互理解の増進に努める。

(6)アジアにおいて、同盟の果たすべき役割はいっそう大きくなっており、次により行動を強化する。(イ)韓国FKTU、台湾CFL、香港HKTUCとの連携を密にし、定期会談を通じて共通の問題解決に取り組む。(ロ)国際自由労連アジア地域組織(ICFTU-ARO)の指導的役割を担い、同組織の活動を充実する。同組織事務局の健全化、国際化と、運営の改善をはかりつつその体質を強化する。(ハ)ARO企画・教育局の企画と運営を充実するため協力する。(ニ)アジア地域組織の連帯基金に協力するとともに、アジア各国労組の活動を支援し、交流を促進する。(ホ)アジア各国の恵まれない人々への救援

活動を推進する。(へ)現在、アジアの一部にみられる、労働運動に対する政府からの不当な干渉や労働基本権の侵害、国際労働運動への参加を制限する動きに抗議し、当該国の労働組合組織の強化のため協力する。(ト)アジア各国労組の組織を拡大、強化するために、教育、調査等に対する、人的・経済的協力を推進する。

(チ)アジア各国労組の行っている協同組合、共済活動などの労組事業活動について援助、協力する。(リ)アジア、その他地域の経済開発の基礎となる技能者養成、海外技術協力について労働組合の立場から援助、協力する。

(7)その他の活動として、次の諸活動を進める。(イ)先進国、発展途上国への日本からの進出企業の実態把握に努め、経済進出、経済協力、労使関係等をめぐる諸問題について対策活動を進める。(ロ)南アフリカにおける労働組合指導者の拘留、労働運動の禁止、迫害、非人道的行為である人種差別政策に反対し、援助、連帯活動を強化する。(ハ)中南米、その他地域における、民主的な労働運動への弾圧に反対し、当該国の自由な労働運動強化のための支援、連帯活動を強化する。(ニ)ポーランドの自主管理労組「連帯」が、多くの困難を克服しつつ、勇気ある力強い闘いを進めていることに注目し、国際自由労連を通じての支援活動を強化する。

## アジア四労組定期会談

八一年一〇月二四日、香港で、同盟、中華民国全国総工会(CFL)、大韓民国労働組合総連盟(FKTU)、香港・九龍工団連合總會(HKTUC)の第四回定期会談が開催され、同盟からは宇佐美会長、辻本副会長、井上国際担当が出席した。会談での主たる討議事項は、世界的なエネルギー危機、インフレ、雇用問題、保護貿易主義の傾向にたいしての対策などであった。会談は四労組の共同確認事項をとりまとめて終了した。

### 【共同確認事項(抜粋)】

#### 一、政治情勢

(1)最近の世界的な政治的混乱状態は、共産主義の影響力が全世界に及んできていることにある。それ故、アフガニスタンやカンボジアからソ連、ベトナムの勢力を一掃するためのあらゆる可能な方法を用いて、圧力を加えるため自由世界のすべての強力な国家が一致協力することが重要である。また、世界平和のため、ソ連陣営の軍事力の拡大を阻止するため、アメリカを支持し、あらゆる努力をしていかなければならない。

(2)イスラエルとエジプトの国交回復は、中東における真の平和と安定をもたらすものであったが、しかし、サダト大統領の暗殺は中東の平和と安定にかげりをおとしている。サダト大統領の後継者が彼の意思を踏襲することが望まれる。

(3)中国の平和的統一は、中国国民の望みであり、アジアの平和と安定に寄与するものである。しかし、統一は中国の全国民が無条件で賛成するものでなければならず、また自由と民主主義の基盤の上のみ実現されなければならない。

#### 二、経済情勢

世界経済の発展、全世界の人間関係の確立と相互理解を発展させるため、発展途上国と先進国は、特に労働組合のレベルにおいて、自由な通商貿易の擁護のために相互間の対話の機会を多く持たなければならない。また、日本、韓国、中華民国及び香港の

労働組合はこの見地にたつて、経済に関するあらゆる問題の解決のため、それぞれの政府へ働きかける等の共同行動を取るべきである。

### 三、国際労働運動(略)

#### 四、結語(略)

### 中華全国総工会代表団の来日

八一年一月六日～一七日、陳宇副主席を団長とする中華全国総工会代表団八名が、同盟の招待で来日した。代表団は七日と一四日の二回、同盟三役と会談したほか、加盟組合の工場見学をはじめ生産性向上運動、福利厚生問題、参加問題等について調査と視察をおこなった。

### CFL大会への出席

八二年三月二六日～二七日、台北で開催された中華民国全国総工会(CFL)全国大会に、同盟から宇佐美会長が出席した。

### 同盟代表の中華民国訪問

CFLより、八二年五月一日のメーデー式典を中心に一週間、同盟代表が招待され、浅野副会長が訪台した。

### CWC大会への出席

八二年三月一二日～一四日、スリランカのヌアラーエリアで開催されたセイロン労働者会議(CWC)第二七回大会に、同盟から井上国際担当が出席した。

### HISTADRUT大会への出席

八一年九月八日～一〇日、テル・アビブで開催されたイスラエル・ユダヤ人労働総同盟(HISTADRUT)年次大会に、アジアおよび同盟を代表して福井副会長が出席し、挨拶を行なった。

### HISTADRUTとの会談

八一年九月一日、テル・アビブでHISTADRUTと同盟の会談がもたれた。会談には、同盟から福井副会長と井上国際担当が出席し、(イ)国際自由労連アジア地域組織(ARO)の機構と政策、(ロ)アジアにおける協力などについて話し合われ、結語が採択された。

#### 【結語(要旨)】

- 一、一九八一年における世界の政治情勢は、不確実さと闘争に明けくれている。
- 二、世界をまきこんだ経済危機は、すべての国々そしてとくに発展途上国から負担をとり続けている。
- 三、世界経済危機はアジアの発展途上国で悲惨な結果をもたらし、自由な労働運動の確立を危機におとし入れている。
- 四、先進国と発展途上国間の理解に基づく新しい経済秩序の確立のみが貧困の根絶と繁栄の基礎となる。

五、インフレや失業の根絶は政府の責任であり、経済成長・完全雇用・社会正義を目的とする行動と政策によってのみ達成されるべきものであることが、われわれの強い信念である。(以下略)

### AFL・CIO結成一〇〇周年記念大会への出席

八一年一月一六日～一九日、ニューヨークで開催されたAFL・CIO結成一〇〇周年記念大会

に、同盟から宇佐美会長、塩路副会長、井上国際担当、貝原国際対策委員が出席した。

## DGB代表団との懇談

八一年七月二日、中立労連の招待で来日したドイツ労働総同盟(DGB)のフェッター会長とクリストファーセン国際局長のDGB代表団と同盟三役との懇談会がおこなわれた。席上、(イ)EC、日本間の貿易問題、(ロ)国際労働問題、(ハ)DGBと同盟の今後の協力関係等が主に話し合われた。

## 西ドイツおよび西欧諸国労組への訪問

八二年二月一八日～二四日、DGBの招待で宇佐美団長、塩路副団長以下、藤原全金同盟書記長、牧野全郵政書記長、井上国際担当、幸重政策室長を団員とする代表団六名が西ドイツを訪問した。宇佐美団長と塩路副団長の二人はDGBとの懇談の後に帰国したが、残り四人の団員はオランダ労働組合運動連盟(FNV)、欧州労連(ETUC)、フランス労働者の力(CGT・FO)、イギリスTUCを訪問し、三月七日に帰国した。

## DGB第一二回大会への出席

八二年五月一六日～二二日、ベルリンで開催されたDGB第一二回大会に、同盟から宇佐美会長が出席した。

## TCO第一五回大会への出席

八二年六月二九日～七月三日、ストックホルムで開催されたスウェーデン俸給従業員中央労働組合連盟(TCO)第一五回大会に、同盟から相原国際局長が出席した。

## ポーランド労組「連帯」大会への出席

八一年九月五日～七日、グダニスクで開催された「連帯」大会に、同盟から福井副会長と井上国際担当が出席した。

## ICFTU・LCの「連帯支援集会」

八二年一月三〇日、東京・千代田区の清水谷公園で、国際自由労連・日本加盟組織連絡協議会(ICFTU・JC)主催の「連帯」支援集会が開催された。集会には傘下組合員二八〇〇人が参加したほか、同盟大会出席のため来日中のナラヤナンICFTU会長、ケルステン同書記長、マツールARO書記長など約二〇人の海外代表も出席した。集会は、(1)ILO調査団のポーランド入国と調査報告、(2)政府と「連帯」との交渉の即時再開、(3)「連帯」組合員の即時全員釈放と戒厳令の即時撤回等を決議し、スコブロン・ポーランド臨時大使に手渡した。

## 第二回世界青年集会

八一年六月二三日～二九日、スペインのセビリアで第二回世界青年集会が開催され、日本から団長遠藤繁明(同盟)、副団長谷良三(同盟)、島之江美恵子(全電通)、前敏(自動車総連)以下、総勢九八名が参加した。集会では、文化行事やレクリエーションのほか、若年失業問題、多国籍企業と労働組合の国際連帯、人権と労働組合の自由、平和と軍縮等の問題が討議された。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---